



木祖村気候非常事態宣言

今、地球温暖化に起因する気候変動が、世界中で異常気象や大規模な自然災害を発生させ、日本においても夏の異常なまでの気温上昇、度重なる強力な台風や短時間豪雨による災害が多発するなど、極めて深刻な脅威となっています。

この気候変動に対し、日本を含む世界各国が、「パリ協定」実現に向けて2020年1月に始動し、最終到達点として「脱炭素社会」を目指しています。

人口2,800人強の木祖村では、先人達が短い夏には額に汗しながら、全国ブランドの「御嶽はくさい」をはじめとする高原野菜を育て、また、長く厳しい冬には、良質な降雪を活かし、長野県下で最も歴史の古いスキー場の一つである「やぶはら高原スキー場」を村の経済を支える施設として育ててきました。

現在、長引く天候不良やスポーツ・リクレーションに対する嗜好の変化などが、本村の冷涼な気候を活かした高原野菜づくりや来場者を良質の雪で魅了する冬の観光資源活用に影を落とし始めています。

夏の涼しさと寒い冬に立脚している観光資源は本村の誇りであり、地球温暖化による気候変動には断固として「待った」をかけていかなければなりません。

また、村の将来を担う子どもたちから、地球温暖化防止に関する取組の提言も生まれています。

小さな村で、できることは限られてはいますが、木曾川源流の里として私たちにしかできないことがあると考えます。

これらを踏まえ本村は、ここに「気候非常事態」を宣言することにより、村民の生命・財産・生活を守り、将来世代に持続可能な社会を引き継いでいけるよう、次の活動に取り組みます。

- 1 地球温暖化の防止に村民一人ひとりが関心を持ち、四季の美しさ、快適さを実感できる本村の自然環境保全活動を推進します。
- 2 木曾川源流の里として森林の適正な管理に努めることにより、二酸化炭素の吸収力を高めるとともに、本村の森林保全活動を下流域に積極的に発信し、流域自治体の模範となります。
- 3 村民一人ひとりが気候変動に対する危機感を共有しながら、二酸化炭素排出量縮減の観点から、資源物の有効活用とリサイクル活動を強化します。
- 4 再生可能エネルギーの普及拡大を図るとともに省エネルギーへの意識を高めます。
- 5 地球温暖化防止対策に村を挙げて取り組むことにより、村民生活の豊かさや下流域に対する水の安定供給の源となる「木祖村の雪」を守ります。

令和2年（2020年）3月16日

木祖村長 唐澤 一寛